北九州市立尾倉中学校　学校通信　第 213 号

尾倉（おぐら）

＜校訓＞
自主
創造
協力

令和4年8月30日(火)発行
校長 栗 原 博 巳
北九州市八幡東区尾倉三丁目10番1号
HP: www.kita9.ed.jp/ogura-j/

＜学校教育目標＞
豊かな心をもち、健やかでたくましく行動する生徒の育成～みんなで考え、みんなで取り組み、みんなでつくる尾倉中学校～
＜目指す生徒像＞
① 感性豊かで、意欲的、主体的に学習する生徒
② 健康で明るく、思いやりのある生徒
③ 礼儀正しく、奉仕の精神に満ちた生徒
◇ 元気のいい挨拶・礼儀・身なり・学習規律と集団生活における規律とマナー

『やる気』こそエネルギーの源だ！！！

2学期はみんなもよく知っているように、いろいろな行事が次々とやってきます。とりわけ、3年生の出番が増えます。体育大会、文化学習発表会を中心に3年生のリーダーシップが問われます。

先生の経験から、行事で頑張れる人は、勉強も頑張れます。勉強で頑張れる人は、行事でも頑張ろうとします。勘違いしないでくださいね。勉強ができる、できないということを言っているのではありません。「やる気」のことなのです。行事でやる気のない人は、勉強もいい加減になりがちです。そういうことが多いようです。なぜでしょうか。それは、ものごとすべて「やる気」の問題が大きいからです。「やる気」があれば、時間がなかろうが、疲れていようが、がんばることができると思うのです。

では、「やる気」って何でしょうか。「頑張るぞ！」と思っても難しい時がありますよね。先生も同じです。そこで、先生が思うには、「やる気がでる」という意味は、「自分の活躍する場が想像できる」かどうかだと思うのです。自分が生き生きと楽しく活動できる場があるなと感じられれば、だれでも頑張るのです。それがなければ、いくら力をもっている人だって活躍はできないし、まずやる気になりません。

10月に入ると、体育大会の練習が始まります。ここで、リーダーとして力を発揮できそうな人、競技で力を発揮できそうな人、係で力を発揮できそうな人、応援で力を発揮できそうな人がそれぞれ、「やる気」になるかどうかがポイントです。「クラスで優勝するぞ」「勝敗に関係なく全力を尽くすぞ」「係りとして責任もってがんばるぞ」というムードを作り、一人残らず、そのムードに欠かせない人でなければならないのです。「自分は必要ない」とか「関係ない」などと思うような人がいたら、それはその人自身の問題もあるでしょうが、その人をそんな風に感じさせた集団にも責任があるかもしれません。

さあ、中学校生活で一番長い2学期です。まずは体育大会目指して、クラスの輪を作っていきましょう。そして、いつまでも思い出に残る体育大会にしましょう。

ずいぶん前の話をしますね。校長先生の田原中学校時代の教え子が所属していた京都サンガF.C.（当時は京都パープルサンガと言っていました）というJリーグのチームがあります。ずいぶん前のことでしたが、チームが急に生まれ変わった時がありました。元日本代表の三浦知良（カズ）がこのチームに加わったのです。デビューするなり、大活躍をしました。（もちろんみなさんは生まれていませんが）代表落ちをしてからあまり活躍できなかったカズですが、京都サンガに必要な人として期待され、あたたかく迎えられたからこそ、活躍ができたのです。ムードづくりの大切さがわかりますね。

尾倉中全員がこの『ムード』『雰囲気』を大切にして頑張っていきましょう！！！

第104回全国高校野球選手権大会選手宣誓から

8月6日（土）第104回全国高校野球選手権大会が、兵庫県西宮市の阪神甲子園球場で開幕し、開会式が開催されました。横浜（神奈川）の玉城（たましろ）陽希（はるき）主将が49校を代表して選手宣誓をしました。

。選手宣誓の全文は以下の通りです。

宣誓。今年は野球伝来150年の節目に当たります。この記念すべき年に、聖地・甲子園で野球ができる喜びに今、満ちあふれています。ただ、今現在収束していないコロナウイルス感染症の予防に最大限努め、日々の生活を送っています。

これまでけがで思うように野球ができず、グラウンドにさえ立てない時期もありました。また、チームをどうまとめていこうかと悩んだ時期もありました。

これらの苦しい時期を乗り越えることができたのは、他でもない、ここに甲子園があったからです。そして、指導者の方々、チームの仲間、家族との強い絆があったからだと確信しています。

だからこそ、結束力のある野球で恩返しがしたい。一球一球に全力を注ぎ、一投一打に思いを乗せ、高校生らしく堂々とはつらつと、そして感謝と感動の高校野球の新たな歴史に名を刻めるように全身全霊でプレーをし、最高の夏にすることを誓います。

令和4年8月6日　選手代表　横浜高等学校　野球部主将　玉城　陽希

戦い抜いた経験は自分の支えになる

この夏にすべてをかける君へ

暑い日が続きますが、体調など崩していないでしょうか。
体格も投げかたも似ている、そして夢が叶うことを1ミリも疑っていない君と
出会ったときから、僕はずっと、16年前の自分を重ねていました。

その夢はきっと叶うよ。とは、僕は言いません。
勝負はわからないから。おなじ夢を持った人たちのぶつかりあいだから。
ただ今のまっすぐな君のまま、どうかこの夏のマウンドに立ち続けてください。
これから先、グラウンドでもグラウンド以外でも君をいろんな出来事が待ち受けています。

僕のように、不安だらけの時期を過ごし、挫折を味わうこともあるかもしれません。
それでもなんとか前を向くために必要なもの。それは記憶だと思います。
過去の栄光、だなんて言われることもあるけれど。
最後まで闘い抜いた記憶は、未来を生きる大きな力になります。
なんて、大舞台がすぐそこだってときに、先の話なんてされたくないか。

この夏、いちばん速い球を投げるのは君じゃない。
いちばん熱い球を投げるのが、いちばん強い球を投げるのが、
なんだかいちばん凄い球を投げるのが、君であってほしいと思っています。
今から君の過ごす夏が、君を一生奮い立たせる夏になりますように。
よし、頑張れ。

2022夏　斎藤佑樹